

奥会津だより



今も暮らしに生きる道具を6回シリーズで紹介しします。— No.4 雪踏み俵 —

雪踏み俵

今ではほとんどが葎や物置の片隅に追いやられてしまった雪踏み俵。十五、六年前まではどの家庭でも使われていた冬の必需品だった。藁で作られた二本の俵に両足を入れて、手で持ち上げながら雪を踏み、雪が降るたびに作る一本の道が、いのちを繋ぐ重要な道となった。

除雪体制が整備されたとはいえ、かなり奥まった家々では今も必需品であることには変わりはない。ひざの上まで覆う藁の俵で踏みしめた雪の道を歩くと、長靴の下でキュツキュツと雪が鳴く。



冬の夜一すじの光流れ星

小林 巧くん (昭和小)

第39号

— 2006年冬 —

雪を迎える風景



深い雪から家を守るための雪囲いが施された家に、明け方降った雪が消え残っていた。やがてすっぽりと白で埋め尽くされ、来春までこの装いを解くことはない。畑のこんもりした杉の葉は、雪中に大根を保存する大根ニョウ（もしくはニユウ）。（南会津町・伊南）

晩秋から初冬にかけての晴れ間は忙しい。降雪までの秒読みの日々は、やがて地面が白く覆われる厳冬のイメージを背負って、光の一滴もこぼさないように斜めの陽光をいとおしむ。雪を迎える煩雑な作業が終って根雪になれば、肝が据わるのだ。



この時期は大根積み作業があちこちで見られる。流水で泥を落とした大根はワラなどで凍らないように保存され春までの食を繋ぐ。（只見町）



田畑の秋仕舞いまで畑に残ったシシトウをムシロに干して乾燥させる風景は、色を失いかけた周囲の枯れ色の中でひときわ鮮やかだ。（金山町）



まだ渋の残る甘柿も降雪前に収穫して皮をむき、干し柿にして戸外に干す。また、焼酎でさらすと、おいしいみしらず柿となる。柿の採り入れは子どもにとっても楽しい作業だ。（三島町）



写真/田沼隆之

奥会津つれづれ

今年の秋は全国各地でクマの出没が目立った。クマの出没は、山に近い場所だけでなく、街中や民家の庭にも多く見られた。毎日のように広報無線でクマの出没が伝えられた。南会津でも、昨年捕獲されたクマの数が18頭に比べ、今年は90頭と増えている。今年はブナの実が不作だったために、里に食べ物を求めて下りてくるクマが急激に増えたのだろうか。中にはクマの中にも「新世代」が登場し、人や物音を怖がらないクマが出てきたからだとも言われている。

また、家の周りでネズミが大繁殖し、畑の作物を食べ荒らし、天井裏に入り込んでいる。昨年ブナの実が豊作だったために数が増え、山だけでなく里にまで広がってきたのだらう。

生態系のピラミッドは、ある層が崩れても、また長い年月をかけて元のバランスを取り戻していく。しかし、底辺である植物のバランスが崩れると、ピラミッドが正常に回復するのは難しいと言われている。

一方、台風や雨が少なく暖かかったことから、野菜が豊作だった今年、市場では価格の暴落を抑えるために、生産調整として収穫前の野菜が大量に廃棄された。仕方ないことだらうが、危険を冒してまで山里にエサを求めて下りてくる動物たちのことを考えずにはいられない。

食べきれないほど生産し、自分たちだけで消費する人間と違い、森に住む動物たちは、自然の中で暮らしながら、自然の恵みを受けて生きている。本当は、人もまた自然の一部に過ぎないということを、奥会津で生活していても、時々忘れてしまいそうに怖くなる。（治）

退職してから始めたものづくり

二瓶六衛門さん（大正十四年生まれ八十一歳）

名立たる豪雪地帯といわれる奥会津。雪に埋もれる約半年間の暮らしは、心の中にまで雪が降り積むかのように重くつらい季節だが、ものづくりを楽しむ方々にとっては、農作業などの屋外の作業から開放されて、好きな手仕事に専念できる充実した季節でもある。二瓶六衛門さんも、この季節を手わっさ（手仕事遊び）で活き活きと暮らすお一人だ。



子供のころの正月ついでという、新しいマタタビザルを貰ったもんだ。近くに住んでいる親戚が年始代わりに持ってきてくれたもんだが、縁の編み方がしつかりしてるなあ。実用品だから丈夫に作ってあって、70年経った今でも使ってる。

オレが編み組細工始めたのは、退職してからだ。冬は退屈なあ。ちょうどその頃の町の生活工芸館で「冬のものづくり教室」が始まって、これは面白そうだなと思った。マタタビザルの作り方はそこに通って教えてもらった。

もう、20年も作ってたんだが、オレは不器用で、なかなか上手に作れねえ。（笑）だから一生懸命でいいに作るだけだ。

こうやって籠作るのは楽しい。退屈する暇はねえし、雪が降る季節だからって、暗い気持ちになることもないしな。冬だけじゃねえよ。夏だって、畑に出る前の飯前仕事に作り方やってんだ。朝早く起きて一仕事。やる仕事は何ぼでもある。ちよつとでもやりたくてな。材料採りから材料の下ごしらえまで七分、編むのが三分。下ごしらえまでの手間ひまかかるのは当たり前だわい。そういうもんだと思うから、大変だなんて思ったことはねえな。材料が良くねえと、やつぱりいいのは出来ないからな。ま、オレは不器用だからあんまりいいのはできねえが、大切にしてもらえとうれしいもんだ。

このブドウツルの籠を作り始めたのは10年ぐらい前からかなあ。やつぱり「ものづくり教室」に通ってな。今年マタタビが採れなかった。毎年、葉っぱが落ちる10月末から11月の初め頃に採るんだが、今年は暖冬のせい葉が落ちなくて、そろそろかなと行ってみたが、もう採った後で残ってなかった。材料が手元にねえと淋しいから、生活工芸館から分けてもらうことにした。出来上がると外に干して、完全に乾くまで風通すほうがいい。マタタビは白くもなるし丈夫になるそうさ。頼まれて作ってるわけだから、気任せに楽しみながらやってるのがいいんだ。モノ作ってれば冬も楽しいもんだよ。（談）

前号の写真説明で「奥州安達ヶ原 熊谷陣屋の段」となっていましたが一ノ谷嫩軍記 熊谷陣屋の段の誤りでした。訂正してお詫び申し上げます。



「銀色の線路（みち）」只見線 会津川口（金山町）

只見線物語 ④

奥会津の暮らしを見つめてきた只見線。列車が紡ぐ四季の風景。

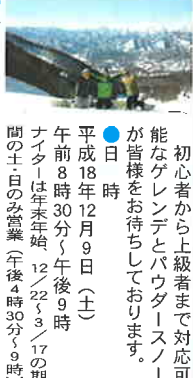
「真冬の会津川口で途中下車。一面の銀世界。その先を目指す一筋の線路は、雪に埋もれながらも、ひときわ銀色に光っていました。どんなに厳しい冬であっても、ふるさとの駅々をつなぐ使命を果たすのだという意志を、静かに感じました。」

絵・文 松本 忠

1973年生まれ イラストレーター
東北地方の路線を中心に、全国各地の抒情性溢れる鉄道沿線風景を描いている
共著：『のんびり行く只見線の旅』（歴史春秋社）

スキー場オープン情報
南会津 館岩
会津高原たかつえスキー場

初心者から上級者まで対応可能なグレンデとパウダースノーが皆様をお待ちしております。



●特典 12月16日(土)ランドオープン。リフト一日券 2,100円(大人半額)。12月24日(土)もリフト一日券無料。抽選で100名様豪華賞品プレゼント。

●リフト料金 一日券(大人4,200円) (小人3,200円) シーズン券(大人50,000円)

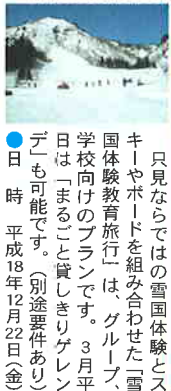
●問合せ 会津高原たかつえスキー場 0241(78)2220
●メール astraeas@tricon.ocn.ne.jp

只見 只見スキー場

只見ならではの雪国体験とスキーやホードを組み合わせた「雪国体験教育旅行」は、グループ、学校向けのプランです。3月平日は「まるごと貸しきりグレンデ」も可能です。(別途条件あり)

●日時 平成18年12月22日(金) 平日(午前9時30分〜午後2時) 土日祝祭日(午前9時〜午後2時)30分

●リフト料金 一日券(大人2,800円) (小人1,500円) (平日700円)



●問合せ 会津高原高畑スキー場 0241(76)2231
●メール http://akahata-ski.ina-area.co.jp/

南会津 会津高原高畑スキー場

スキーヤーオンリー、山頂から3.5kmのダウンヒルコースです。

●日時 平成18年12月23日(土) 午前8時〜午後4時30分

●特典 リフト半日券で1日滑走可能。リフト料金スキー50%OFF

●リフト料金 半日券(大人2,500円) (小人1,400円)



●問合せ 会津高原高畑スキー場 0241(76)2231
●メール http://akahata-ski.ina-area.co.jp/

柳津 柳津温泉スキー場

誰でも楽しめるファミリー向けのスキー場。ナイターも完備しています。スキーのあとは、柳津温泉でのおんびり疲れを癒してください。

●日時 平成18年12月23日(土) オープン当日は午前10時から安全祈願祭

●リフト料金 半日券料金(2,400円)で1日滑れます。

地元記者の目

晩秋にひっそりと 冬の花蕨(フユノハナワラビ)



奥会津だより 地元記者 三島町 小松順太郎さん



周りの山々は薄く雪化粧し、霜が早朝の山里に降りる晩秋、降雪前の晴れた日に田のあぜ道や陽当りのよい草地などを歩くと、黄土色の小さなツブツブを沢山つけた数の子状の植物を見かけることがあります。よく観察すると径の根元には蕨(ワラビ)の葉を小さくしたような葉がついています。

この植物は、ハナヤスリ科のハナワラビ属に属する冬の花蕨(フユノハナワラビ)という冬緑性のシダ植物で、寒くなるとう胞子径を伸ばし見

た目が花のようであることから、この名前がつけられたということです。

春から夏の間は休眠し、夏の終わりから初秋にかけて小さな葉を広げて養分を吸収し、晩秋になると胞子径を地上10〜20cmに伸ばします。当初緑色の胞子は、雪が降りる頃になると黄土色に変わり、雪の間から顔を出していることもあります。多くの植物が厳しい冬を乗り越えるため葉を落とし地上に伸ばした径類を枯らす晩秋に、寒さに立ち向かうように生える冬の花蕨をあなたもさがしてみませんか。ただし、準絶滅危惧種に指定している県もあり貴重な植物です。鑑賞のみにとどめ採取は遠慮しましょう。

奥会津だより地元記者をHPでも掲載しています。今回掲載した記事の他に、柳津町の松木さん、金山町の滝沢さんの記事をHPで掲載しています。是非ごらんください。

歳時記の郷・奥会津ホームページ <http://www.okuizu-style.com/tdrsk/>

●問合せ (財)やないづ振興公社 0241(42)3302
●メール info@akadeko.info (やないづ)振興公社

南会津 南郷 会津高原南郷スキー場

フリーパークにハイパバイブが4本常設されているのは国内で南郷スキー場だけ。

●日時 平成18年12月23日(土) 午前8時30分〜午後4時30分

●特典 半日券料金(2,400円)で1日滑れます。



柳津 七日堂裸詣り

1200年の歴史を誇る名刹、福満虚空蔵園蔵寺で行われる奇祭。下帯姿の男たちが雪と寒さの中、石段を駆け上がり、本堂内の天井に吊るされた大鰯お目指しです。

●日時 平成19年1月7日(日) 午後7時30分頃から午後9時30分頃まで

●参加料 福満虚空蔵園蔵寺寄附金

●問合せ 柳津観光協会 0241(42)2346



●問合せ 会津高原南郷スキー場 0241(73)2111
●メール http://www.sayurinosato.co.jp/

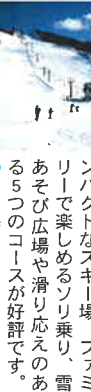
南会津 南郷 鶴巢早乙女踊り

豊作を祈念する小正月の年中行事。町指定無形民俗文化財。

●日時 平成19年1月13日(土) 午後6時

●参加料 鶴巢集会所ほか

●問合せ 鶴巢早乙女踊り保存会 0241(72)2029



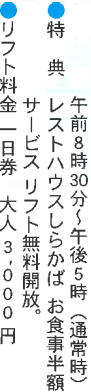
金山 フェアリーランド かねやますスキー場

越後山脈の山懐に抱かれた雄大な自然の中にあるコンパクトなスキー場。ファミリーで楽しめるソリ乗り、アソビ広場や滑り応えのある5つのコースが好評です。

●日時 平成18年12月23日(土) 午前10時〜午後3時(オープン日) 午前8時30分〜午後5時(通常時) レストハウスにしかばお食事半額サービスリフト無料開放。

●リフト料金 一日券(大人3,000円) (小人2,000円) 小・シニア2,000円

●特典 平日特典キャッシュバック 1,000円(お帰りの際にリフト)



●問合せ 尾瀬檜枝岐温泉スキー場 0241(75)2351

方言クイズ クイズに答えてプレゼントを貰おう!

問題: 次の方言の意味は何でしょう?
「大根ニョウ(もしくはニョウ)」

ヒント: 「雪を迎える風景」を参照。

正解者の中から抽選で1名様に、「南会津町・伊南の特産品」をプレゼントいたします。

●応募方法: 官製ハガキに奥会津だよりの感想、住所、氏名、電話番号を明記の上、答えをお書きください。

●あて先: 〒969-7511 福島県大沼郡三島町大字下字中乙田799 奥会津書房宛

●応募締切: 12月末日消印有効

※当選者の発表は、商品の発送をもってかえさせていただきます。
※クイズの答えは次号40号で発表いたします。

◎38号「よつま」の答え: 夜 たくさんのご応募ありがとうございました!